

外国語科学習指導案

1 単元名 Unit 5 A Legacy for Peace NEW HORIZON English Course 3

2 本単元で扱う領域における「CAN-DO リスト形式」による学習到達目標（第3学年）

	聞くこと	読むこと	話すこと[やり取り]	話すこと[発表]	書くこと
ア	クラスメートの経験などについて、自分になじみのない話であっても、必要な情報や概要を理解することができる。	クラスメートの経験や、社会的な話題などについて、自分の感想や考えを述べられるように、内容を読み取ることができる。	自分やクラスメートの経験などについて、メモなどを活用しながら、たずねたり答えたりすることができる。	自分やクラスメートの経験などについて、メモなどを活用しながら、具体例や感想などを加えて話すことができる。	自分の経験などについて、具体例や感想などを加えて、まとまりのある文章を書くことができる。
	U1、LL1	U3、LW2	SA1	SA1	LW2
イ	海外の文化などの紹介や、社会的な話題についての短いニュースなどを聞いて、概要や要点を理解することができる。	日本や海外の文化、社会的な話題などについて、イラストや写真、図表なども参考にしながら、内容を読み取ることができる。	日本や海外の文化などについて、質問をしたり答えたりしながら、理解を深めていくことができる。	日本や海外の文化などについて、自分で作成したパンフレットなどを活用し、さまざまな情報を加えながら、紹介することができる。	日本や海外の文化などについて、文章構成を意識したまとまりのある文章を書くことができる。
	LL4	U4	SA2	SA2	U5
ウ	社会的な話題について、ディスカッションやディベートでの相手の主張を理解することができる。	社会的な話題についての記事や説明文などを読み、内容を整理しながら要点をとらえることができる。	社会的な話題について、自分の願いや賛成・反対の意見を述べながら、話し合うことができる。	社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことをもとに、自分の願いや意見を発表することができる。	社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことをもとに、自分の願いや意見を書くことができる。
	LT3、SA3	U6、SA3、LR2、LR3	U6、LT3、SA3	U6、SA3	U6、SA3

3 単元における指導構想

○教材観

本単元では、インドの民族独立運動の最高指導者であるガンディーが紹介されている。本文では、ガンディーの生い立ちや彼の活動の根底に流れる非暴力の精神、自分の身体を犠牲にしても非暴力を主張し続けたガンディーの功績などが扱われている。これらの内容を通して、平和や人権の大切さについて考えさせる良いきっかけにしたい。

文法事項として、名詞を修飾する文や関係代名詞 who, that[which]（主格・目的格）を用いた文が扱われており、これらを活用することで、人物や物事についてより詳しく情報を伝える力を養うことができると思う。

○生徒観

本学級の生徒は、基本的な授業規律や学習に向かう姿勢が比較的身に付いており、すべきことはきちんとしようとする生徒が多く、学習態度も前向きで真面目である。また、日頃から英語を使用したり習った英語をすぐ生活の中で活用したりと、英語に慣れ親しんでいる。一方で、英語に対して苦手意識をもっている生徒もおり、ペア活動やグループ活動では“Help Each Other!”を合い言葉に互いに助け合いながら取り組んでいる。教科書の本文を参考にして、友達と教え合いながら、自分が伝えたい内容や意見を正確に伝えられるよう、自分なりに試行錯誤しながら書いて伝えようとする力を養いたい。

○指導観

本単元は、関係代名詞の諸用法が扱われており、人物や物事について情報を付け加え、より具体的に説明するのに適した題材であると考えます。

単元終末の活動として、自分の学校のホームページで学校紹介をするという場面を設定し、初めて読む人にも分かりやすく説明できるよう、読み手を意識する状況設定をした。この単元を通して自分たちの学校の良さや特色について理解を深め、学校行事や部活動、先生の紹介などについてまとまりのある文章を書くことで、自分たちの学校について、また学校についての思いを相手に伝える発信力を育成したい。

4 単元の目標

学校のホームページを初めて読む人に、学校の魅力を伝えるために、学校行事や部活動、先生の紹介などについて、誰が読んでも分かりやすい説明で、自分の気持ちや考えなどを含めながら簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

5 単元の評価規準（「書くこと」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 名詞を修飾する文や関係代名詞 who, that [which]（主格・目的格）を用いた文の形・意味・用法を理解している。</p> <p>〈技能〉 名詞を修飾する文や関係代名詞 who, that [which]（主格・目的格）を用いた文の理解をもとに、言葉に詳しい情報を加えて書く技能を身に付けている。</p>	<p>学校のホームページを初めて読む人に、学校の魅力を伝えるために学校行事や部活動、先生の紹介などについて、誰が読んでも分かりやすい説明で、自分の気持ちや考えなどを含めながら簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。</p>	<p>学校のホームページを初めて読む人に、学校の魅力を伝えるために学校行事や部活動、先生の紹介などについて、誰が読んでも分かりやすい説明で、自分の気持ちや考えなどを含めながら簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書こうとしている。</p>

6 指導と評価の計画（9時間）

時	ねらい（■）、言語活動等（丸数字）	知	思	態	評価方法・留意点等
1	<p>■単元の目標を理解する。</p> <p>■ジョシュのスピーチを聞いて、ガンディーがどのような人物であるかを理解する。</p> <p>①自己目標を設定する。</p> <p>②プレビューを視聴し、ジョシュと（姉の）マリアの会話を聞いて、何について話しているのか理解したことを伝え合う。</p> <p>③ジョシュのスピーチを聞いて、ガンディーがどのような人物であるかを聞き取る。</p>				
2	<p>■お気に入りのものについて詳しい情報を加えて説明する。</p> <p>①ジョシュのスピーチの内容を確認する。</p> <p>②教科書の本文に出てきている Key Sentence の意味や使い方を確認する。</p> <p>③詳しい情報を加えて自分のお気に入りのものについての英文を書く。</p>				
3	<p>■ジョシュと朝美がガンディーの何について話しているのかを伝え合う。</p> <p>①本文の内容が理解できているか、確認する。</p> <p>②教科書の本文に出てきている Key Sentence の意味や使い方を確認する。</p> <p>③Practice で説明の仕方を練習する。</p>				

記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かす。

4 本 時	<p>■人やもの、場所について説明するクイズの英文を書く。</p> <p>①Listen をする。</p> <p>②クイズ大会をするために有名人や教科書にでてきた人やもの、場所について説明する英文を書く。</p> <p>③クイズに答える。</p>	<div> <div>生徒の活動の状況を見届けて指導に生かす。</div> <div>記録に残す評価は行わないが、ねらいに即して</div> </div>			
5	<p>■ガンディーについての伝記を読み取り、理解する。</p> <p>①Q&A を通して、ガンディーについての伝記に書かれている内容を理解する。</p> <p>②教科書の本文に出てきている Key Sentence の意味や使い方を理解する。</p> <p>③Round1～Round3 をする。</p>				
6 7	<p>■自分の町のおすすめスポットや、おすすめの本やいつも持っているものについて説明する英文を書く。</p> <p>①既習の Key Sentence の意味や使い方を復習する。</p> <p>②Practice で説明の仕方を練習する。</p> <p>③自分の町のおすすめのスポットや、おすすめの本やいつも持っているものについて説明する英文を書く。</p>				
8	<p>■あこがれの人物についての紹介文を書くことができる。</p> <p>①Unit 5 での学習内容を復習する。</p> <p>②自分のあこがれの人物について、詳しい情報を加えたり理由を述べたりしながら紹介する英文を書く。</p>	○	○	○	<p>〈活動の観察〉</p> <p>〈ワークシート〉</p> <p>・あこがれの人物についての紹介文が書けている。</p>
9	<p>■学校を紹介する説明文を書く。</p> <p>①何を紹介するのかを決める。</p> <p>②紹介する学校行事や先生などについてのマッピングをする。</p> <p>③学校紹介の英文を書く。</p>	○	○	○	<p>〈活動の観察〉</p> <p>〈ワークシート〉</p> <p>・学校の紹介文が書けている。</p>
後 日	ペーパーテスト	○			
後 日	パフォーマンステスト	○	○	○	

7 本時の活動（第4時）

(1) 目 標

クラスメートに分かってもらうために、人やもの・場所について、詳しい情報を加えながら、英文を書くことができる。

(2) 展 開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の 場面	評価方法
1 分	1 あいさつをする。	・天気・日付・曜日などの質問をして、授業の良い 雰囲気を作る。	記録に残す評価は行わないが、 ねらいに即して生徒の活動の 状況を見届けて指導に生かす。	
2 分	2 本時の目標を知る。	・目標を意識して活動を行うように伝える。		
クラスメートに分かってもらえるように、有名人や教科書に出てきた人やもの・ 場所について詳しい情報を加えながら英文を書こう。				
5 分	3 Listen をする。	・写真を見てキーワードになりそうな単語を想像 しながら聞き取らせる。		
6 分	4 Speak & Write を 行い、人やものにつ いての説明の仕方 を確認する。	・例を参考に問題を解くように指示する。		
3 分	5 クイズの仕方を 理解する。	・例を示して活動の仕方を説明する。		
15 分	6 クイズの英文を、 タブレットを用い て書く。 (個人→ペア活動)	・机間指導を行い、困っている生徒に支援をする。 ・個人で考えさせた後、ペアで教え合わせる。 ・中間指導を行い、よりよいクイズを完成させる。		
15 分	7 クイズ大会を行 う。	・タブレット上でクイズに答えるように指示する。 ・何人かのクイズを取り上げ、良い点について考 えさせる。		
3 分	8 本時のまとめと 振り返りをし、あい さつをする。	・生徒の良かった点を伝える。 ・次時の学習内容を伝える。		

8 評価及び指導の例（「書くこと」）

「十分満足できる」と判断される状況 (a)	相手が理解しやすく興味をもてるように、詳しい情報を付け加えながら、学校紹介についての説明文や自分の気持ちや考えなどについて、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書いている。
「おおむね満足できる」状況 (b) を実現するための具体的な指導	どんな情報を付け加えることで分かりやすい説明になるのかについて例を示して確認させることにより、詳しい情報を付け加えながら学校紹介についての説明文や自分の気持ちや考えなどについて、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるよう支援する。
「努力を要する」状況 (c) と判断した生徒への事後指導	人やものの説明の仕方や自分の考えを伝える表現などを再度確認し、これまで学習した表現などを活用できるよう個別支援を行い、「おおむね満足できる」(b) を達成できるようにする。